

LPAかながわ

ライフプラン講座「よりよいくらし設計のために」

家計の現状を把握しましょう

(1) 手取り収入って？

総収入（給与やその他の収入）から税金（所得税・住民税）と社会保険料（健康保険・厚生年金保険・雇用保険・介護保険・労災保険）を差し引いたものが手取り収入となります。社会保険料が毎年上がることになっているので給与が上がらなければ手取り収入は減ることになります。

(2) 給与明細（例ですので、企業により異なります。わからないときには、勤め先の給与課などに問い合わせしてみましょう。）で手取り収入を見てみましょう。

[支給項目]

基本給	住宅手当	通勤非課税	残業手当	
240,000	20,000	12,000	23,200	
残業時間	深夜残業			支給計
10 時間	2 時間			295,200

[控除項目]

健康保険	厚生年金保険	雇用保険	源泉対象額	
11,480	20,994	1,680	249,046	
所得税	住民税	労組費	団体保険	控除計
6,400	15,000	3,000	3,410	61,964
			差引支給額	233,236

(金

額)

a 総収入	295,200
b 所得税住民税などの税金	21,400
c 健康保険・年金・雇用保険などの社会保険料	34,154
手取り収入 = a - b - c	239,646
d 給与天引きされるもの	6,410
手元に残る金額 = a - b - c - d	233,236

(勤め先から実際に給与口座に振り込まれる金額)

*手取り収入と手元に残る金額には違いあることを忘れずに。

(3) 手取り収入の内訳は？

手取り収入は**固定費**と**やりくり費**に分けることができます。

固定費は給与からの天引き・通帳からの自動引き落とし・毎月決まって支払うお金のことで、**生命保険料・学資保険・財形貯蓄・毎月の積立金・家賃（住宅ローン）・インターネット・固定電話代・新聞代・保育料・授業料・月謝・NHK受信料・携帯電話代・電気・ガス・水道・駐車場代・自動車関連費**などが考えられます。

やりくり費は自由に使えるお金で、**食費・日用品費・交際費・被服費・レジャー費**などが考えられます。

(4) まとめ

手取り収入が把握できたら、手取り収入に見合った支出の振り分けが重要になります。3ヶ月間家計簿をつけると家計の傾向が大体わかるといわれています。固定費の見直しはなかなか難しいこともあって、やりくり費の削減を第一に考えがちですが、固定費支出の削減も是非、考えてみましょう。固定費は駐車場代などのように長く払い続けるものや、保険料など削減しても生活実感の変わらないものなどがあり、家計の改善には固定費の見直しが重要なポイントになります。